



第63期(平成23年3月期) 決算説明会資料

平成23年5月13日



東洋水産株式会社

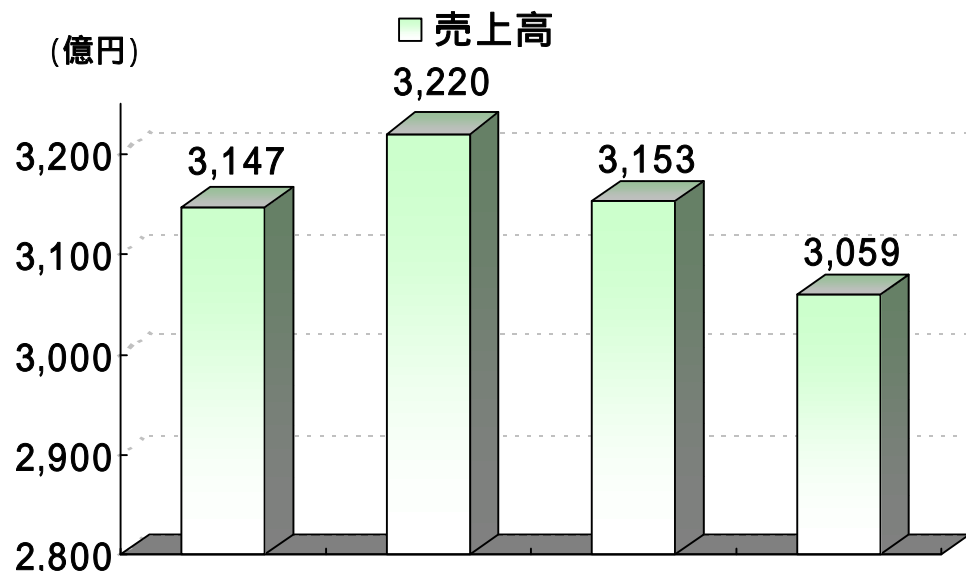


目次

	(頁)		(頁)
前期連結業績	3	当期予想	
前期概況		国内即席麺事業	15
国内即席麺事業	6	低温食品事業	15
低温食品事業	8	加工食品事業	18
加工食品事業	10	水産食品・冷蔵事業	18
水産食品・冷蔵事業	11	海外即席麺事業	19
海外即席麺事業	12	連結通期予想	21



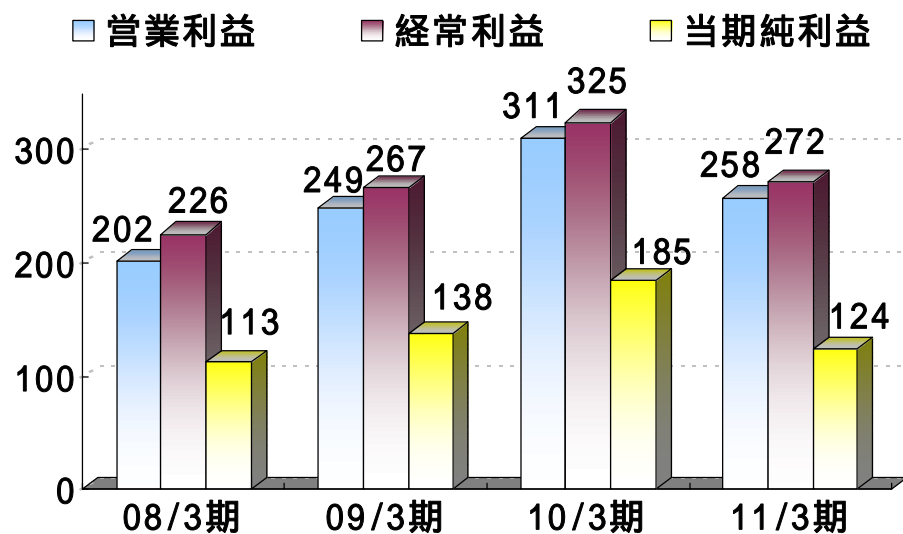
前期連結業績



(億円)

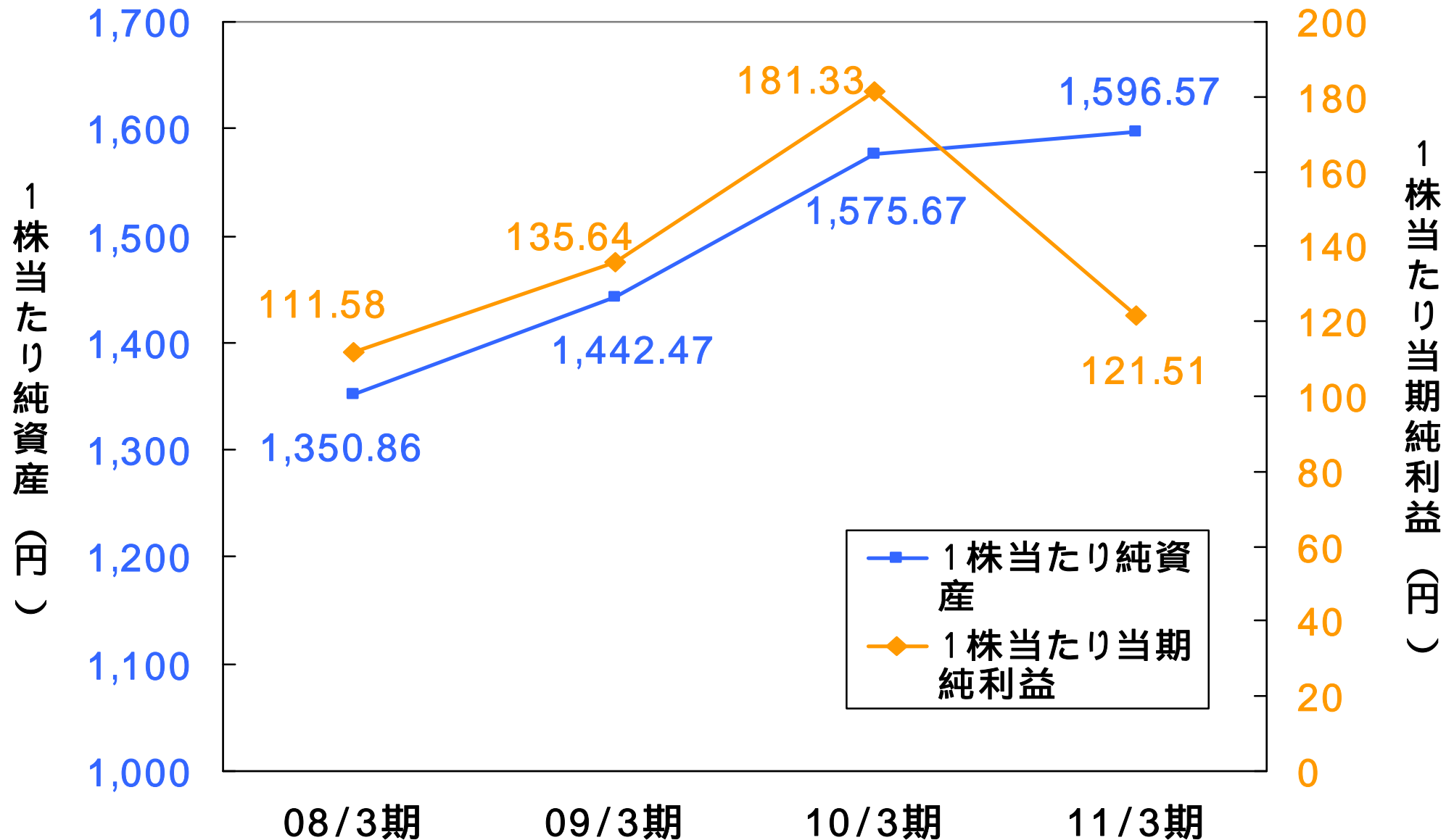
	10/3期	11/3期	増減	
水産食品事業	334	334	+0	-0.1%
海外即席麺事業	592	502	-90	-15.3%
国内即席麺事業	970	1,018	+47	+4.9%
低温食品事業	653	634	-19	-2.9%
加工食品事業	194	183	-10	-5.3%
冷蔵事業	129	128	-1	-0.8%
その他	281	260	-21	-7.3%
売上高合計	3,153	3,059	-94	-3.0%

	10/3期	11/3期	増減	
水産食品事業	4	7	+3	+81.6%
海外即席麺事業	121	74	-47	-38.6%
国内即席麺事業	124	116	-7	-5.7%
低温食品事業	42	43	+1	+2.9%
加工食品事業	6	5	-1	-14.7%
冷蔵事業	9	6	-3	-37.6%
その他	5	6	+1	+12.2%
営業利益合計	311	258	-53	-17.1%





前期連結業績・・・経営指標の推移





前期概況



前期実績 国内即席麺事業

即席麺市場の状況

- ・ 各社が新製品を積極投入
- ・ カップ麺の価格低下により、袋麺からカップ麺に消費がシフト



袋麺の状況

- ・ 主力ブランドは健闘したものの
全体的に販売厳しい

カップ麺の販売施策

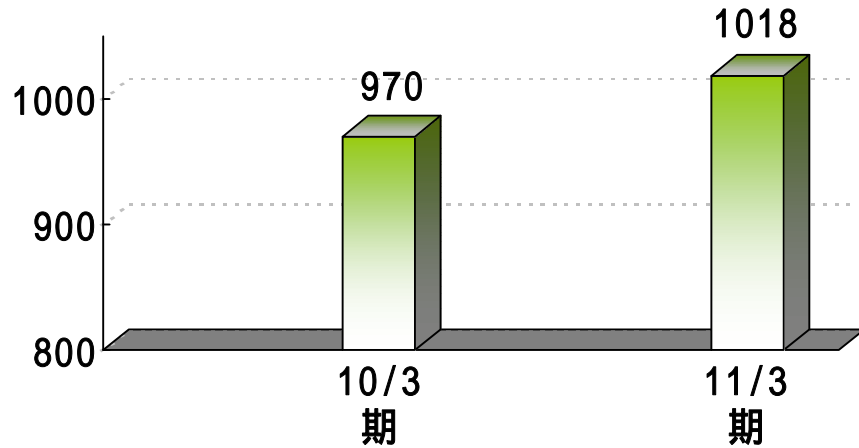
- ・ 「緑のたぬき」30周年キャンペーン実施
- ・ 「昔ながらのソース焼そば」
麺リニューアル
- ・ 「四季物語」「ごつ盛り」好調





前期実績 国内即席麺事業

売上高
(億円)

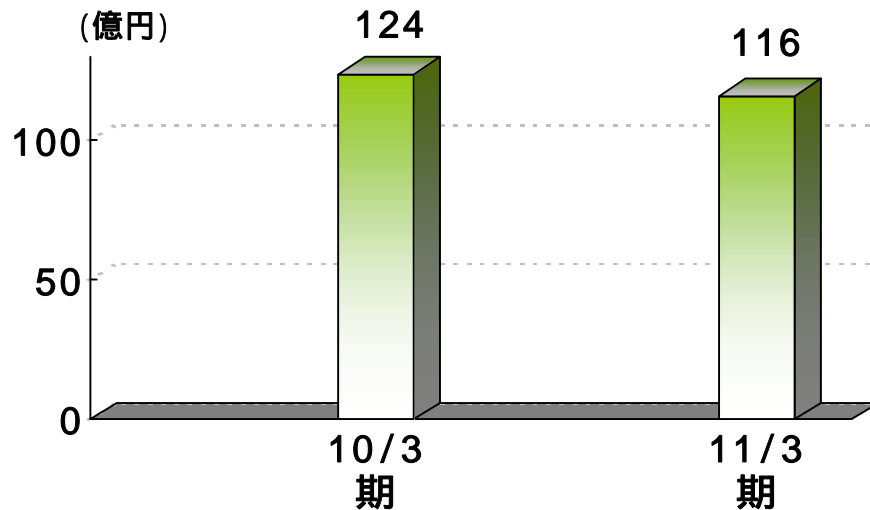


国内即席麺事業

(単位:億円)

	10/3期	11/3期	増減	
売上高	970	1,018	+47	+4.9%
営業利益	124	116	-7	-5.7%

営業利益



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 15
原材料費増加	- 6
製造経費増加	- 11
販管費増加	- 5
合計	- 7



前期実績 低温食品事業

生 麵

生麵市場は前年を下回る状況が継続

- ・ P B や低価格商品の台頭による単価下落
- ・ 他のカテゴリー、他業界における低価格化傾向の影響



当社の状況も厳しい

- ・ 消費者キャンペーン実施
- ・ 主力品「焼そば類」「生ラーメン類」の価格競争
- ・ 「つけ麺類」の売上拡大



冷凍食品

- ・ 冷凍野菜の新製品が売上に貢献
- ・ 外食低迷の影響で業務用冷凍うどん・そばが厳しい



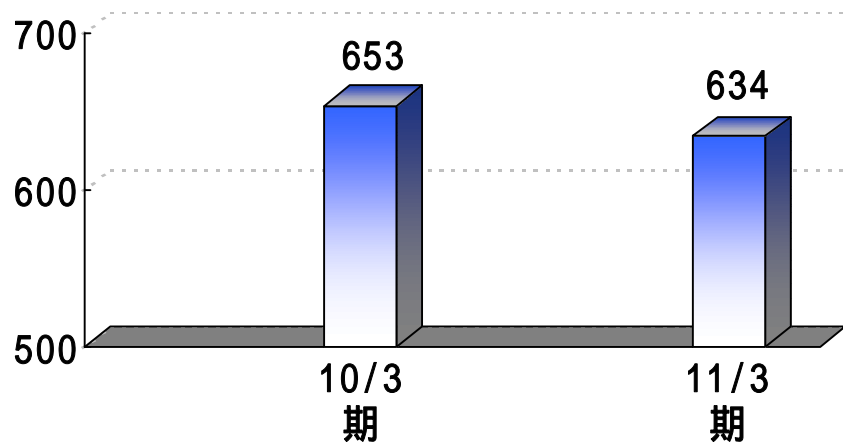


前期実績 低温食品事業

低温食品事業

(単位:億円)

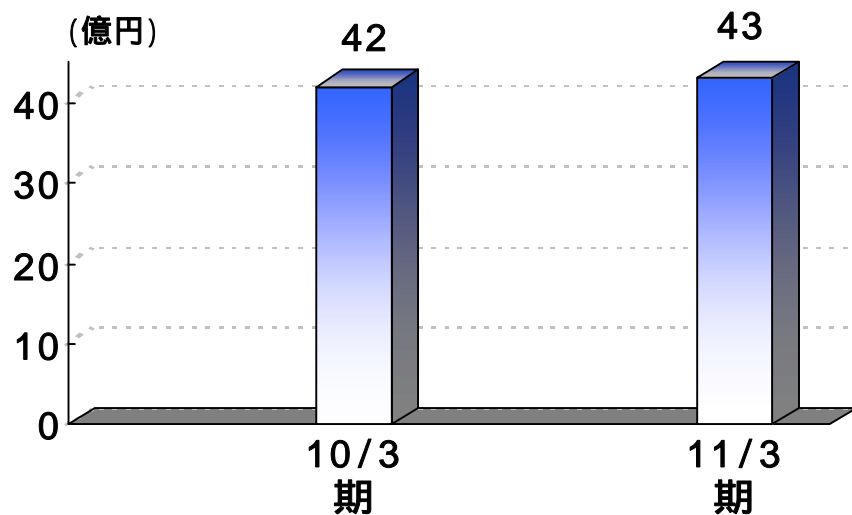
売上高
(億円)



	10/3期	11/3期	増減	
売上高	653	634	-19	-2.9%
営業利益	42	43	+1	+2.9%

営業利益

(億円)



要因	影響額
売上高減による利益減少	- 5
原材料費減少	+ 10
製造経費増加	- 3
販管費増加	- 1
合計	+ 1



前期実績 加工食品事業

米飯

- ・ 家庭内炊飯の増加や消費者の低価格志向により
販売環境厳しい
- ・ 震災の影響で製造が止まり販売に影響



FD製品

- ・ 簡便・本物志向の流れでFDスープ類が堅調に推移
- ・ FD製法の特徴を活かした商品開発
(素材感を活かしたスープ、山芋とろろなど)





前期実績 水産食品・冷蔵事業

水産食品事業

- ・ 世界的な市況の回復、海外勢の需要増加
- ・ 東日本大震災による甚大な被害

冷蔵事業

- ・ 荷主の在庫圧縮、猛暑によるアイスクリーム需要増
在庫下落、保管料収入減少



前期実績 海外即席麺事業

北米の販売環境

- ・ 高所得層は支出を増やす傾向、ただし中・低所得層は生活防衛
- ・ 健康志向の高まり
- ・ メキシコにおける貧困層拡大、割安な基礎食品の購入傾向



当社の対応策

- ・ 即席麺市場縮小を避けるため販促対応
- ・ アメリカ、メキシコとも数量目標クリア



小売、他社の動き

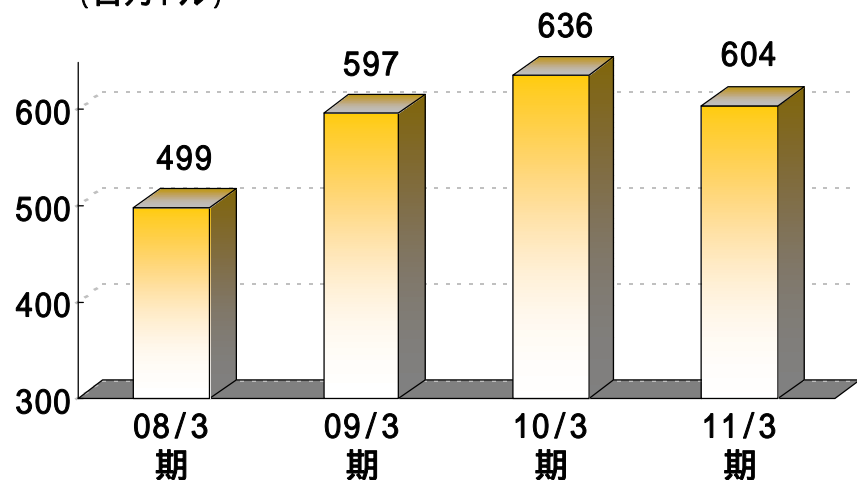
- ・ 一部小売による一社制推進、棚割り見直し、安値販売による集客販売単価下落
- ・ 大手食品メーカーが積極的に棚拡大、安値販売





前期実績 海外即席麺事業

売上高
(百万ドル)

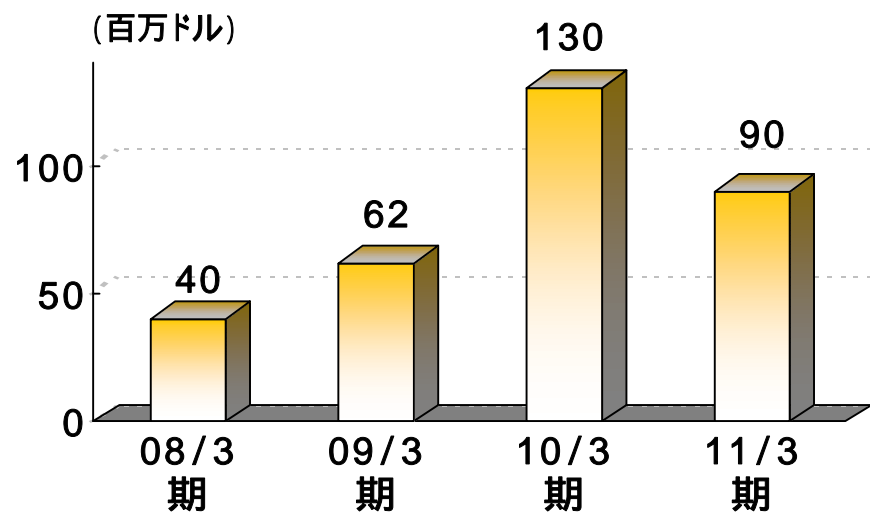


海外即席麺事業

(単位:百万ドル)

	10/3期	11/3期	増減	
売上高	636	604	-33	-5.2%
営業利益	130	90	-40	-31.3%

営業利益



要因	影響額
売上高減による利益減少	-27
原材料費増加	-10
製造経費減少	+2
販管費増加	-5
合計	-40



当期予想



当期の見通し 日本

国内即席麺事業

- ・ 和風麺など主力商品を底上げ
- ・ 消費者キャンペーン実施
- ・ 付加価値を持った新商品開発



低温食品事業

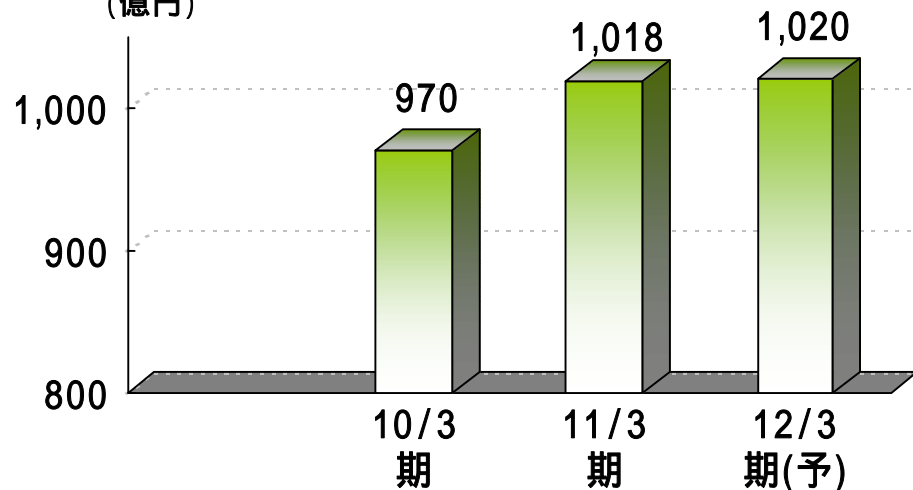
- ・ 市場では厳しい価格競争、買い上げ点数減少
- ・ 基幹商品強化、新商品開発
- ・ 消費者キャンペーン実施による需要喚起





当期の見通し 国内即席麺事業

売上高
(億円)

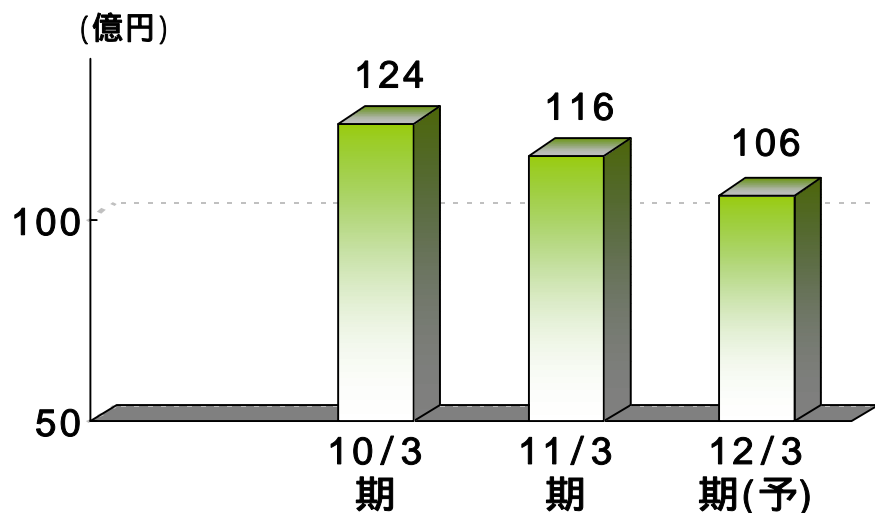


国内即席麺事業

(単位:億円)

	11/3期	12/3期(予)	増減	
売上高	1,018	1,020	+2	+0.2%
営業利益	116	106	-10	-8.9%

営業利益



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 1
原材料費増加	- 14
製造経費増加	± 0
販管費減少	+ 3
合計	- 10

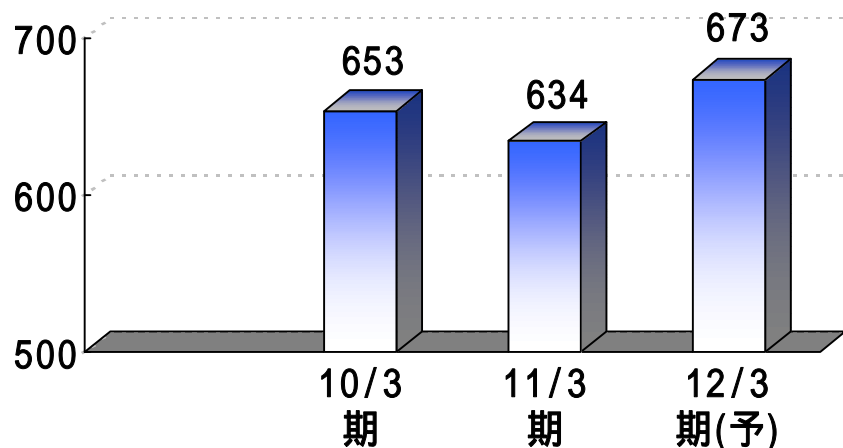


当期の見通し 低温食品事業

低温食品事業

売上高
(億円)

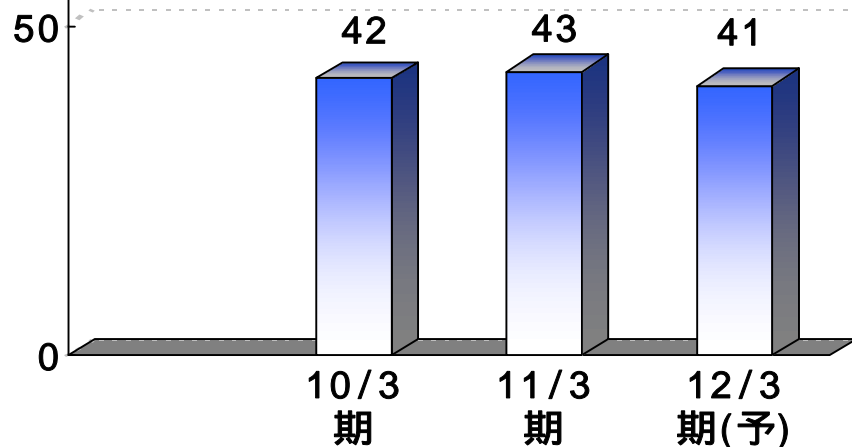
(単位:億円)



	11/3期	12/3期(予)	増減	
売上高	634	673	+39	+6.2%
営業利益	43	41	-2	-4.4%

営業利益

(億円)



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 11
原材料費増加	- 10
製造経費減少	+ 1
販管費増加	- 4
合計	- 2



当期の見通し 日本

加工食品事業

- ・ 既存品はコストダウンによる低価格志向への対応
- ・ こだわりの有る新商品開発による幅広い商品展開

水産食品事業

- ・ 得意商材の積極的な販売、新商品開発

冷蔵事業

- ・ 価格対応、高品質サービスの強化



当期の見通し 海外即席麺事業

製品値上を実施

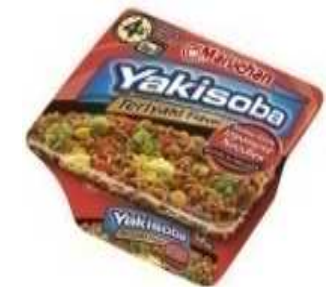
- ・ 当期は原料高騰の影響拡大
- ・ アメリカ、メキシコにて値上実施

新体制への移行

- ・ 昨年から1年がかりで順調に移行
- ・ 新体制の下、更なる発展目指す

販売数量拡大策

- ・ 消費者への製品訴求
- ・ メキシコにて袋麺、ヤキソバ需要喚起



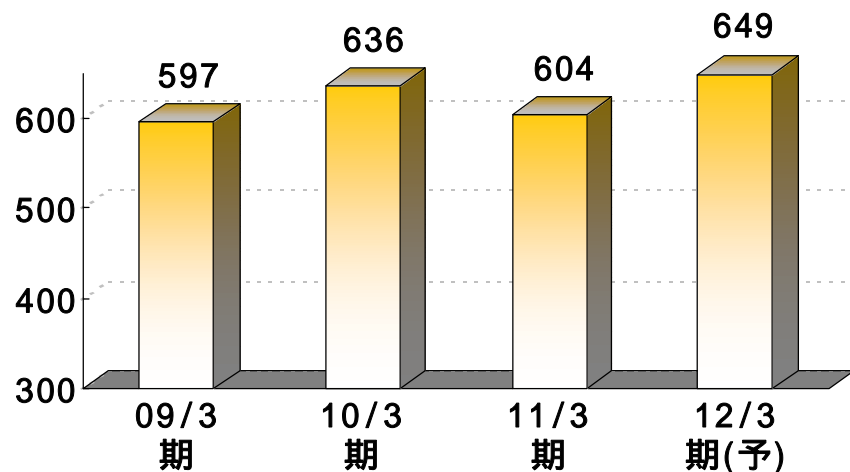


当期の見通し 海外即席麺事業

売上高
(百万ドル)

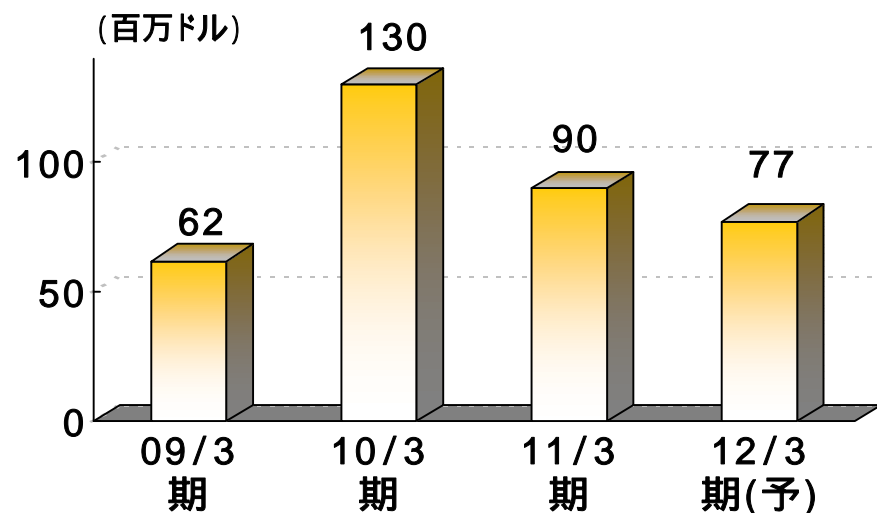
海外即席麺事業

(単位:百万ドル)



	11/3期	12/3期(予)	増減	
売上高	604	649	+46	+7.6%
営業利益	90	77	-13	-13.9%

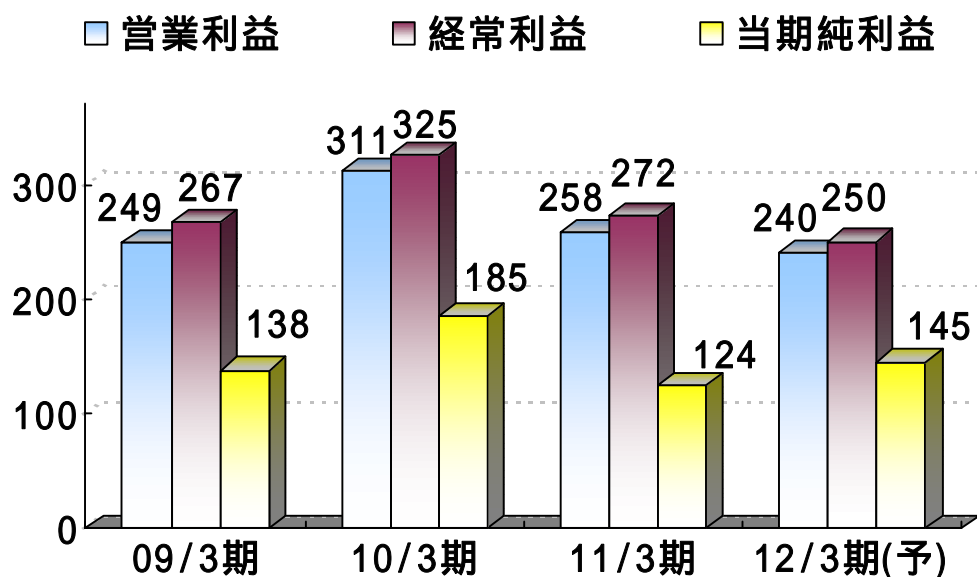
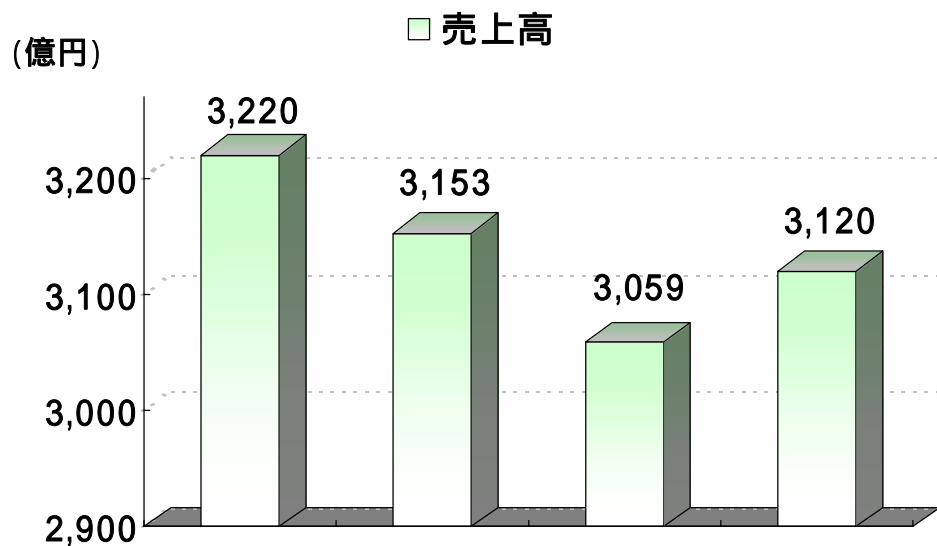
営業利益



要因	影響額
売上高増による利益増加	+ 46
原材料費増加	- 56
製造経費増加	- 1
販管費増加	- 2
合計	- 13



当期連結業績予想



(億円)

	11/3期	12/3期(予)	増減	
水産食品事業	334	299	-35	-10.4%
海外即席麺事業	502	520	+18	+3.6%
国内即席麺事業	1,018	1,020	+2	+0.2%
低温食品事業	634	673	+39	+6.2%
加工食品事業	183	173	-10	-5.6%
冷蔵事業	128	144	+16	+12.1%
その他	260	290	+30	+11.4%
売上高合計	3,059	3,120	+61	+2.0%

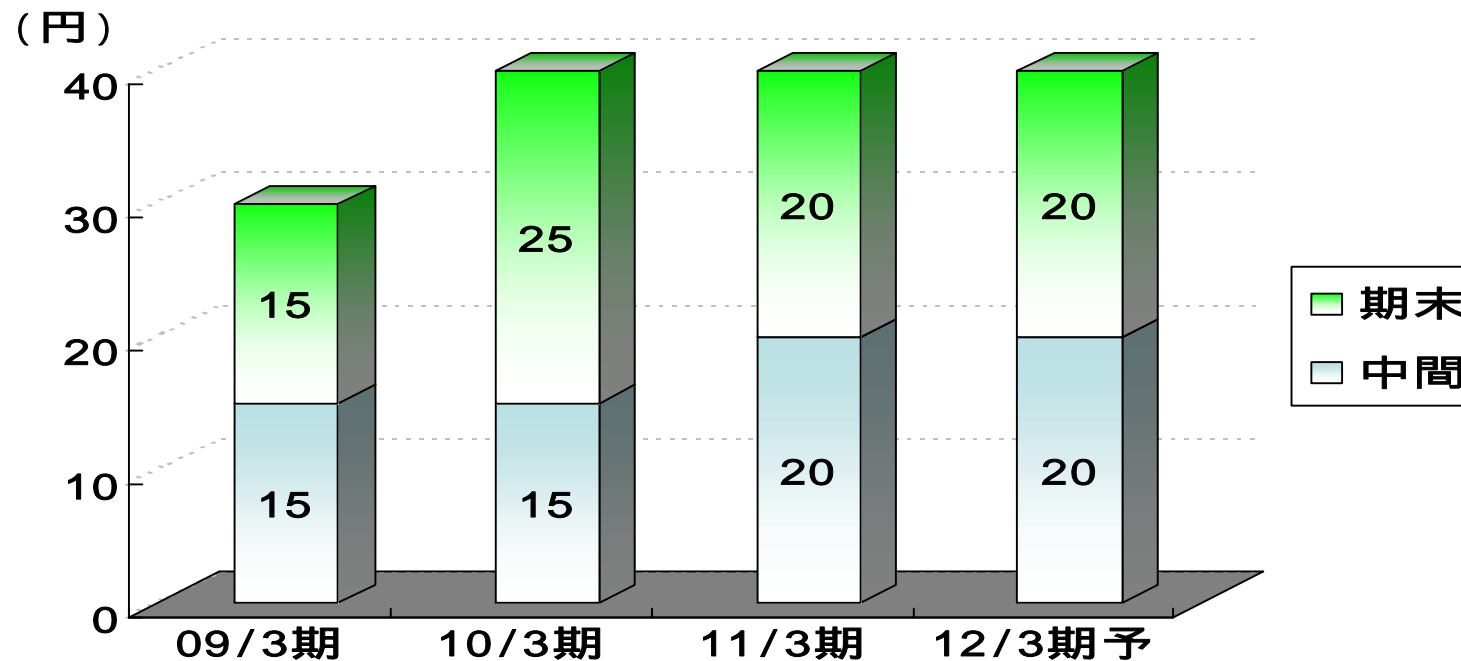
水産食品事業	7	9	+2	+27.2%
海外即席麺事業	74	62	-12	-16.7%
国内即席麺事業	116	106	-10	-8.9%
低温食品事業	43	41	-2	-4.4%
加工食品事業	5	5	+0	-7.9%
冷蔵事業	6	10	+4	+81.7%
その他	6	7	+1	+10.2%
営業利益合計	258	240	-18	-7.0%



当期連結業績予想 … 配当

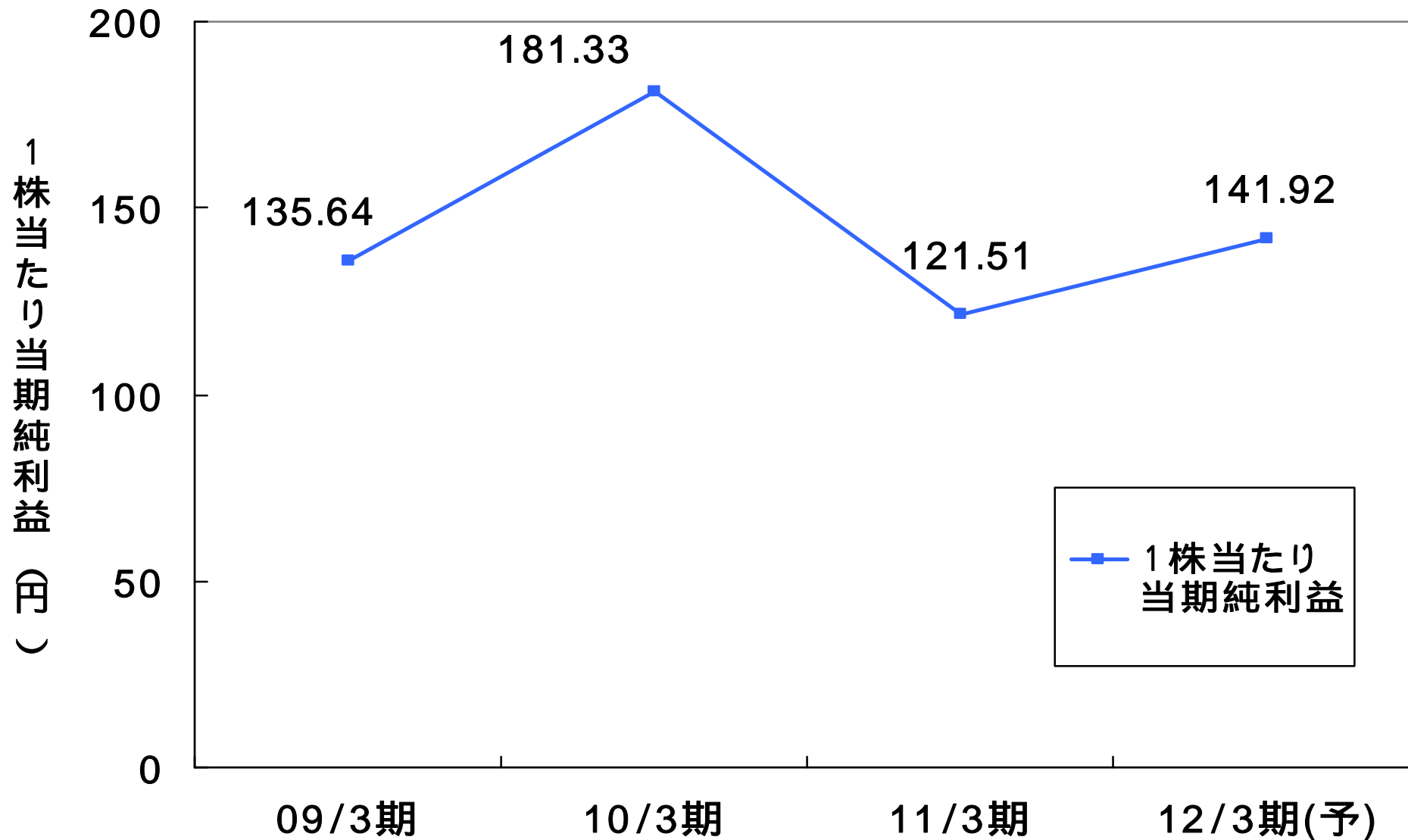
配当方針

- ・ 期間業績を加味しながら安定配当を実施
- ・ 長期にわたり安定した配当を継続することを目指す





当期連結業績予想・・・1株利益



Smiles for All.

すべては、笑顔のために。

この説明会資料に掲載されている、東洋水産株式会社の計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に対しての見通しであり、現時点で入手できる 情報から得られた東洋水産株式会社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績については様々な要因により、見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。



東洋水産株式会社